

ドラクシン®

長期間持続型の
新しいマクロライド製剤

- ・1回投与で最適な作用持続時間を達成
- ・マイコプラズマへ高い有効性



ドラクシン® 25

ドラクシンと同じ効果で
子豚に注射しやすい投与量

- ・1回投与で最適な作用持続時間を達成
- ・マイコプラズマへ高い有効性



有効成分	ツラスロマイシン	ツラスロマイシン
含量	1mL中 100.0mg (カ価)	1mL中 25.0mg (カ価)
適応症	細菌性肺炎	細菌性肺炎
用法・用量(体重1kg当たり)	ツラスロマイシンとして 2.5mg(カ価)を 単回頸部筋肉内注射	ツラスロマイシンとして 2.5mg(カ価)を 単回頸部筋肉内注射
体重10kg当たりの投与量	0.25mL	1.0mL
投与1カ所当たりの最大投与量	1.4mL(≤体重56kg)	4.0mL(≤体重40kg)
有効菌種(豚)	アクチノバチルス プルロニューモニエ パスツレラ ムルトシダ マイコプラズマ ハイオニューモニエ	アクチノバチルス プルロニューモニエ パスツレラ ムルトシダ マイコプラズマ ハイオニューモニエ
ドラッグデリバリーシステム	貪食細胞 に取り込まれ炎症部位へ移行	貪食細胞 に取り込まれ炎症部位へ移行
抗菌作用以外の特長	抗炎症作用¹⁾	抗炎症作用¹⁾
使用禁止期間	16日間	16日間
貯法	密封容器 室温保存	密封容器 室温保存
開封後の使用期限	室温:4週間²⁾	室温:90日間
包装	100mL × 1ガラスバイアル入 50mL × 1ガラスバイアル入 20mL × 1ガラスバイアル入	100mL × 1ガラスバイアル入

※本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
※本剤は、第一選択薬が無効である症例に限り使用すること。

1) Fischer et al.: Antimicrob. Agents Chemother. 55(1):338, 2011
2) 申請資料

エクセーデ® S

1回の投与で
7日間効果が持続

- ・1回投与で最適な作用持続時間を達成
- ・幅広い抗菌スペクトル



エクセネル® RTU EZ

溶解の手間がなく、
簡便性が向上

- ・有効菌種が4菌種に拡大
- ・使用禁止期間は3日間



エクセネル®注

3日間の使用禁止
期間でより確実に
治せる安心

- ・注射部位に対する高い安全性



有効成分	セフトオフル	セフトオフル塩酸塩	セフトオフルナトリウム
含量	1mL中 100mg	1mL中 50.0mg	1mL中 50.0mg ¹⁾
適応症	細菌性肺炎	細菌性肺炎	豚胸膜肺炎
用法・用量(体重1kg当たり)	セフトオフルとして5.0mg(力価)を 頸部筋肉内に単回投与	セフトオフルとして1~3mg(力価)を 3日間、筋肉内に注射	セフトオフルとして1~3mg(力価)を 3日間、筋肉内に注射
体重10kg当たりの投与量	0.5mL	0.2ml~0.6mL	0.2ml~0.6mL
投与1カ所当たりの最大投与量	2.0mL(≦体重40kg)	なし	なし
有効菌種(豚)	アクチノバチルス プルロニューモニエ パスツレラ ムルトシダ ヘモフィルス パラスイス ストレプトコッカス スイス	アクチノバチルス プルロニューモニエ パスツレラ ムルトシダ ヘモフィルス パラスイス ストレプトコッカス スイス	アクチノバチルス プルロニューモニエ
ドラッグデリバリーシステム	血漿タンパクと結合し速やかに炎症部位へ移行	血漿タンパクと結合し速やかに炎症部位へ移行	血漿タンパクと結合し速やかに炎症部位へ移行
抗菌作用以外の特長	有効菌種の耐性化傾向なし	有効菌種の耐性化傾向なし	有効菌種の耐性化傾向なし
使用禁止期間	70日間	3日間	3日間
貯法	密封容器 室温保存	密封容器 室温保存	室温保存
開封後の使用期限	室温:12週間	室温:42日間³⁾	室温:12時間²⁾ / 冷蔵:7日間²⁾
包装	100mL × 1ガラスバイアル入 50mL × 1ガラスバイアル入	100mL × 1ガラスバイアル入	80mL × 1ガラスバイアル入 20mL × 5ガラスバイアル入

※本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
※本剤は、第一次選択薬が無効である症例に限り使用すること。

1) 表示力価に従い、1mL当たり50mg(力価)となるよう注射用水で溶解
2) 溶解後の使用期限
3) 申請資料